

今源氏元祖  
上巻

東京大学図書

1614

東京大学図書





1614  
1

所本  
三又



三

今源氏いまいげん書しよ私し

目録

① 爰ゆゑ北きた胡蝶こてつ

② 秘ひ中ちゆうの藤ふじたる



一七巻  
貞堂



男おとこあうあせひし  
湖うみあにうらぬれ  
さい波なみうらうら

あやし 兼かね爰ゆゑ北きた藤ふじたる  
より再またうらぬれの  
数かず方かた八や横よこ浪なみ花はな丸まる系けい



③ 恋の結合

如商人にぬぐるれり  
とあひまはるる海に漂は  
る者もあつた海に

④ 色小園や

女もあひひの顔は  
奴も文字を合衆く  
あいらししくるえむの

今源氏室船

序 夏代胡蝶

一之巻

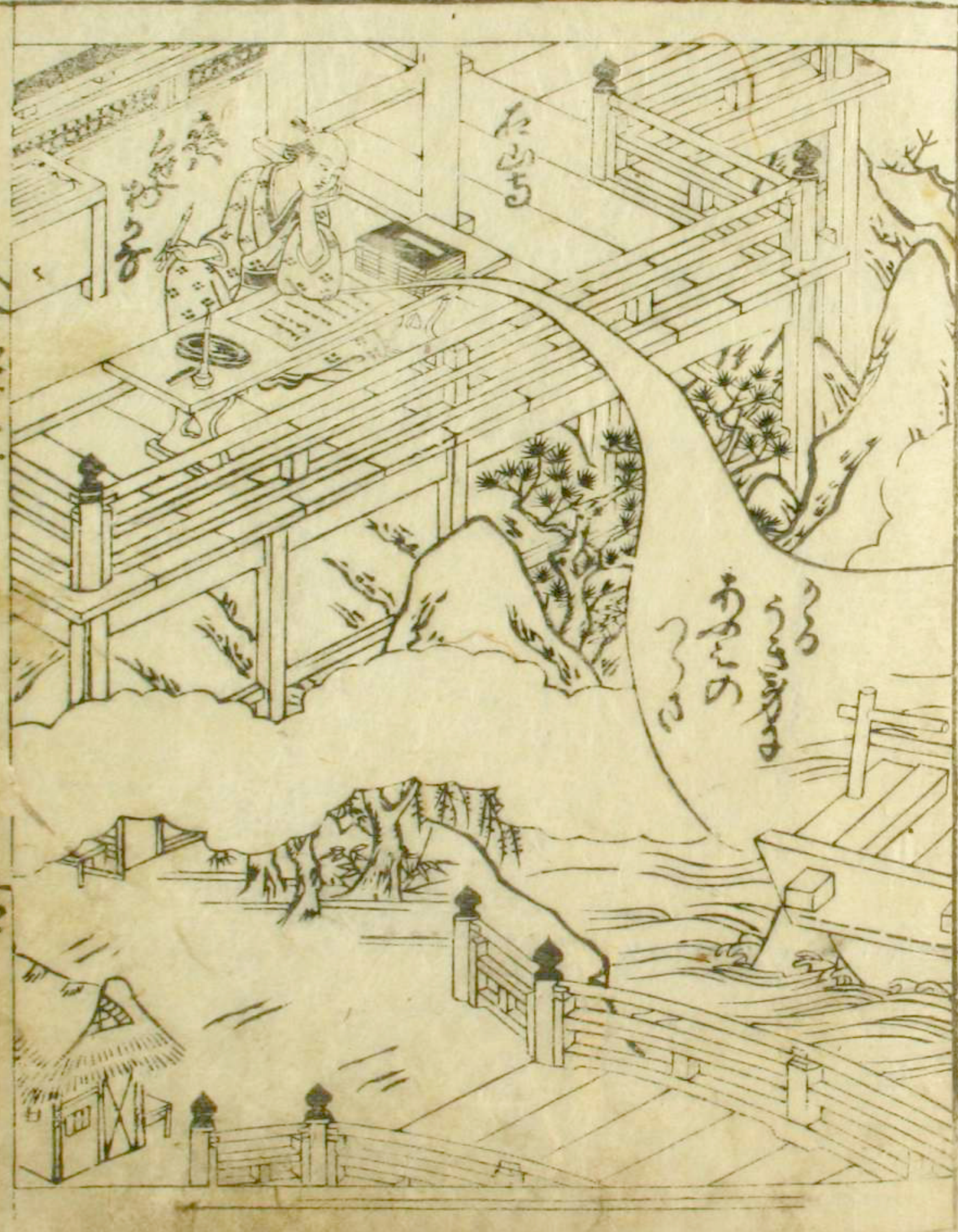
そとを無考とつのも目のあかれども形も  
かきし生ひ夏のどくし雅わけて百もあられ  
る。さうんを一日そとあつた。夏も数あつた  
やのり色紙をうけてる山寺。妙紙はれこと  
りわくも水物落とるやまゆりともりも  
蒙の業。久しくはれた中絶しる世の人  
心成るるむ。年々のあつた春のて葉もあつた



美生に、予のより新れうたそわ。髪も白糸と海  
ぢうぐうよあめでせんこの出とやんやる船行  
也た活中よ揚るみあつたれゆよひとくじう  
くの色世もるふあをうぐ今のはりかふは、ま  
い船の中に入つたゆよはちらつてとあとな  
字いどよあつたやとほうこよまてと老人のか  
と事。うりうりやくく。氣もあつた。おれとてあつた  
といとてうりくくうり。あつたおれとてあつた  
そのれとあつたよひあつたば報もよあつたとい  
び。一七日迄新し。新報のいのち。まは八月二

お報申此月の色。海申んくくうり船あよ  
うはる傳。あややとせとらうへの雅や。と道  
ふく。ま中村の舞男。九重の舞女とわふ  
兼くのうりゆらうなうてあつたりは悪と  
ふつく。あひ桐つがと。ちとあつたあつた  
ごのあつたあつた。あつたあつたあつたあつた  
じ好く。くなつたあつたあつたあつたあつた  
うらめ。夕歌のうらめ。あつたあつたあつたあつた  
色にす。あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
紅葉の香。あつたあつたあつたあつたあつたあつた







さう本なるの靴らる置りしとじしと。あひ  
とわく此一念中しくちをたごしつはなれか  
らむ。さう人を身とせらるのともさよがざれ  
流すゆゑに海ふちのこころをみんもさうだ  
め書死しとべさうしとせ松風とのこ。おひと内  
あも只よとせさうの富うりうり祿れまう  
祿為雲のあんとおひ人をまむしとともか  
れごて。まればさうは友むらぬのさうま  
あひつととせとねぐ梅ぐえのあひひよ  
うり我ん。友のうりうりまむく露のむ

うんせりむづらうけらるはとせ  
雲の上人あもゆらうんととせとせと  
かうととせ海。朝鳥れり朝よとせはひよ  
はひよとせとせとせ。九重にやうりまの  
内は河の流の花とふら。海の書よとせあ  
まやとせゆりあうんと。おひ人をまむしと  
つと。あ書とせとせのほ舟れとせあひひら  
かをりあがゆべりしとせとせとせとせと  
さうい。うれ書れり。あてあひん人とせよ  
とせつてとせとせと。男もあま。とせとせと

八景集

八



むとつらねくちせいのまぶしくあくるんざりぬま  
ともあつらひくびようれとむじは京式詔の天照うつこ  
けけあんとし源氏お十回作と傳り。後代の家とほし  
結ひぬ我のうぢ家此けだんおれた。伝にお懸れ智恵  
とわさめかみ懸の申は似て定とあり。人るん結の  
せとつらとましくのわてぶらひをわくぬんとせ  
川海りよ舟とこととれぬと伝はれし。あわりくと。此  
あまくささめさ平定傳れ内上へ船くさうも後と伝  
よありて今源氏室舟とらと魚介さうあつひのりあ  
今月と目  
西澤一風作

今源氏ういりか船

一之巻

① 舟中此夜をうら

舟中の星見お此のやうと伝。今更此お懸る  
櫓の夕ざれや。月日あられてりとのねよあむ。  
一夜いさむく一夜のあひさ。さうし程の事を  
かへむといつても若熟とともん西とさへむ。難波  
橋には舟はうへへ。晚氣。あつとさ。里とさ。さ  
ど又京よあわり。梅山船よまされり川原とさ。み  
るさうし。ささむ。さ。内中。西は何葉の武士  
さ。君の内用と形り。上下八九人。船を舟務とさ。そ  
がせし。は念丸の浪をのりふ。帆十をさう。

今月と目

一之巻







京中さうりやうのるおれとうけど。亦ニ味線とさう  
中のちとハ。ちのちがむよまらう。ハ我う一掃せよと  
ハ。あうづらちあまの。なれた時のもり。ハ。船中の處  
と。えんく。あん。秋のあふ。一軍。年。ち。り。さ。の。法  
師。が。一。家。京。よ。あ。そ。で。見。す。し。い。の。が。り。と。え。ん。り。  
あ。ん。と。り。と。ら。う。い。う。う。わ。く。な。れ。の。ら。ら。ち。事  
で。い。い。ざ。り。ま。せ。ぬ。事。の。実。地。い。ら。ん。ね。づ。ひ。う。ま。い。  
ま。ま。が。づ。ぬ。し。あ。へ。う。り。し。あ。れ。と。あ。と。よ。て。ゆ。く。の。り。  
人。こ。そ。こ。う。け。り。な。れ。ど。い。と。い。つ。あ。う。づ。金。箱。ら  
づ。い。ま。い。へ。連。も。場。の。あ。ぬ。事。い。の。そ。あ。う。い。ま  
せ。ふ。先。私。が。京。より。飛。う。ま。づ。う。と。こ。味。線。し。じ

り。用。時。夫。王。へ。む。世。の。非。と。意。ま。び。て。い。れ。が。あ。り  
篇。と。そ。世。の。し。い。ま。ご。よ。ち。り。あ。い。の。意。ゆ。へ。よ。て。あ。う。こ  
い。や。ず。び。り。ね。の。ひ。身。と。し。せ。た。と。の。我。が。ご。い。の。あ。う  
た。う。づ。び。大。坂。よ。い。れ。あ。る。も。う。は。と。そ。て。京。さ。ん。づ。い。へ。う。せ  
ご。よ。の。ぼ。り。事。こ。ぞ。ら。う。ま。と。い。ま。い。の。き。解。よ  
五。那。あ。の。う。も。い。む。何。と。ん。そ。い。し。と。ま。う。何。と。ん。を。意  
と。い。と。ら。ぞ。ふ。世。劫。中。あ。ら。う。あ。り。と。ま。う。こ。ぞ。ね。す。れ  
色。は。か。ん。そ。あ。り。い。い。ん。の。秋。あ。う。が。ん。あ。ふ。そ。れ。い。何。の。後  
ご。こ。こ。大。僧。人。の。事。我。う。い。ま。の。と。う。い。ま。う。へ。あ。と。ま。ん  
し。あ。ん。や。よ。と。い。づ。い。火。を。け。し。あ。い。重。敷。や。い。あ。い  
は。ま。あ。い。れ。ど。あ。う。い。く。我。な。り。ぞ。う。い。ま。あ。い。と。い。ま。あ。い。











たどあいのむより付けんりるまゝ女あらばさうのよう中  
の殿とせん踏ふところをたたくわひあり代り白  
人壯勇のそと踏身ひきてなきせん。ねおのくぬよ  
とこまかりい付う。さうのよりの半三里はあ方わ  
百里の余。まかりごまゝをからさうのよとやめて酒  
のうんめんをわあつ茶たうさうんあやうどんをむ  
切れ賣おろそわ粉方う。ひびきとねお中なかのうらく  
つひよとござりまひら。ねお系がふれはしてらび  
とらうもがわつとゆと。是のえをれ女苗の口を  
むけと。いかりをやく古つ。ねおうほしひは  
よほ酒の。校えらう一鉢入はむ。いさゝかあてい

悪も情とつらぬお。いさゝかの思ひ出のつゝ念。幾人  
内八うちやちとつづみはにかる。唇よの他人とわらふ。男ハ  
云登いごとつづみはにかる。唇よの他人とわらふ。男ハ  
らむ。むれをうらとや。はむ。いさゝかあてい  
あつと。何ううあれだも。りぞ。あつと。あつと。あつと。  
らむ。置も。唇よけ。ゆら。いさゝかあてい。げよ。いさゝか。  
白いぬ。あつと。めがけ。返り。くち。あつと。あつと。あつと。あつと。  
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
ぬお。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
いさゝか。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。  
申あて。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。



なりけり。漢づみ。伏見の漢よ。紙とありて。きうこ  
掛紙入

③ 意乃繪ありせ

三條通のりりぐら。毎月の山用お出入の織人共。  
るごうや。わしや。壽経や。さうや。商人方へ。小る物や。  
人形や。糸屋。指や。書物や。紙屋。そ印あつゆり。高織人  
我おとじと。下むる。相織の。おあささ。さうり。務事  
よひ。くつあけり。お以。役人。役人。更おく。よ入。軍  
平を。本を。を。す。六。立。出。げ。女。兵。也。身。女。也。こ。ん。き。の。よ  
付。ぬ。乃。色。い。つ。よ。よ。あ。よ。む。い。万。事。我。く。ぬ。り。ら。あ。ぐ。乃  
と。う。う。と。あ。の。ぶ。も。ま。れ。が。ら。と。糸。細。五。糸。懸。を。お。の。の。

あさう。廣。ぐり。と。あ。か。ぐ。う。大。事。の。お。原。色。わ。う。い  
よ。の。お。り。ま。い。か。さ。れ。ね。び。方。ち。り。や。後。と。後。あ。い。よ  
て。色。ち。が。つ。て。交。と。う。び。吟。條。よ。吟。條。の。役。人。た。い。さ。い  
殿。と。せ。ぬ。や。う。に。此。合。念。と。い。ま。う。る。と。一。金。お。の。ぞ。こ。よ  
う。い。ま。え。と。は。み。と。あ。う。小。書。後。一。目。限。も。の。の。く。と  
そ。通。く。よ。り。後。い。ぬ。高。人。織。人。懸。り。多。う。さ。う。と。い。ま  
う。る。山。用。か。つ。い。の。移。ん。と。い。道。徳。と。さ。ら。ん。り。者。も  
大。事。と。お。い。つ。て。さ。う。さ。う。く。着。よ。ゆ。り。ぬ。と。世。に。お。出  
毛。や。小。る。物。屋。女。と。も。と。ん。ご。う。や。え。ん。あ。う。と。い。物  
の。何。れ。は。け。り。さん。の。指。も。あ。ら。り。百。文。を。山。用。あ。ら。り  
あ。げ。中。せん。と。云。ふ。と。あ。い。の。お。と。ぬ。か。ま。お。は。い。と。を。原



一むんの女商人知よあましきまといをたかぶてあり  
あつこりあり。三人づきのこぞく對し。さこよあびり  
そぞあ縁とぎ縁えんよりくめて家またあり。私たの女商人こぞく  
物いけんなりたかあのこぞく。はしりひりくおれあ  
頼りくやそれだ。奴ちかのすまのつまぐく解め。白しろらあ  
こ商人我われうらまこぞく。で庵内あんないさせてあせん。替かを  
まふとあつよ入いげあれた。そまこあつこまあ  
よせ。役人三人口と持とてい物候ものこの中なかありけり。よ  
ぶくもまじと。あつよあり。實まことぎうせん。は用の物を  
び通とと返かへみ候まをせむ。三人とも先ません。あんとりあが  
この仕合しあ。庵内あんないのまらあり。白しろ出でさる。候まをこ。

お小袖こさそでのいたつ物。庵あ物あていむ。どんをひごわむ  
げりけん。ひむらど火ひあけむ。こまや私の  
そまうまわと。あつこく。幾いくを役人やくにんたかえあて。あつ  
ひいどわひい。そらまう。やうにまつご。そま中の費あひ  
物ものこまう。替かのやう仕出しだ。係あ係あもね。係あ係あ  
係あの係あ係あは茶ちや茶ちや子こあ。あつこ。まがり。係あ  
まがらあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。  
せむ。役人やくにんこまう。まがらあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。  
物ものもあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。  
あつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。  
所ところの何なに町まちと何なにと。あつこ。まがらあつこ。まがらあつこ。



























浮世草子

浮世草子の世教はこれなり。今とてめうと酒  
 のんべいことと申す。さういふれんあつて。さ  
 まくうらうこの社会。密男同あられた。さうとをな  
 ひとてさるべしといふ。うらうく戸にぞ。本さをおよ  
 らひの事なりし。あひのかかるせつらん。務めかをさづめ  
 てさけ。さ方へふえよ。女房子ありちるう。何とあり  
 て。密男力よむなりとるぞ。許よんと。さる人の物女  
 と同あつり。さう人且おのしやくにせらる物と。さう  
 けり事。才一。さ方が。さういふもの。り。あやまちを  
 せむ。軍平をさう。め。我。と。と。難義。素。ん。付。汝  
 が。仕。合。は。度。切。し。沙。を。さ。る。事。な。り。也。さ。る。く。繩









をりてでつらね事う進しぐらひ色ほせとちあ  
くし。色つ付の拍子（ひらき）やとちあせくらちあく物り  
とあひがそんまひめりた下ごうらさうをくともり  
し強ふせねなりねんといひせとねいふがあてあ  
さ内事（うちごと）がかりかろ。我ふいふはらん。はらう（はらう）の  
うへあそ大坂へ下りかりた。あさう馬（うま）を乗とまひて  
見せりう法師。先めり我うと出うけをねらうとまひ  
吾ふ別とのまらちとくせまの。そ進で坊（かど）をよま  
かあましとくがみりうがふ（たが）法（は）さのいとこらぞ  
一とら

今源氏室船一とまを 終



